

医学部女子学生（4～6年生）の
卒後ワークライフバランスについて考える会
報告書



2012

自治医科大学地域医療推進課

目次

I. はじめに	3
II. 開催概要	4
III. 次第	5
IV. 開催内容	6
第1部 講演会	6
開会挨拶	6
講演会	6
第2部 懇談会	7
挨拶	7
グループディスカッション	7
懇談会	10
V. アンケート結果報告	10

I. はじめに

近年、新医師臨床研修制度の開始に伴う医師不足が取り上げられるようになり、地域医療を取り巻く環境は厳しさを増しています。

本学におきましても、第1期生では1名であった女性が、今では毎年20人前後、多い年には30人以上入学するようになりました。

また、女性が増えてきたことに伴い、結婚や出産・育児などのライフステージの変化に関する悩みを抱える卒業生からの相談が増えてきました。結婚・出産・育児は、勤務と両立させると、どうしても女性に負荷がかかりがちのため、勤務の継続に対する支援が必要となっています。

卒後指導委員会では、これを受け、平成18年12月に「女性医師の支援に関するワーキンググループ」を立ち上げ様々な対策について議論を重ねてまいりました。

具体的支援策として、平成20年度からこれまでに、ホームページの作成およびニュースレターの発行、業者との連携による育児相談、女性卒業生の勤務先への訪問調査、女性卒業生と医学部女子学生との連携を深めるための交流会の開催など実施してきました。

今では、離れていてもメールやSNSなどで情報交換をすることはできますが、やはり、会ったことのない人に“相談してみよう”という気にはなかなか取れないものですし、卒業生同士、また、卒業生と学生でゆっくり話をしたり聞いたりする機会もなかなか取れない状況にあります。

そこで、平成20年度から卒業生と在学生との交流の場を設けようと交流会を企画してきましたが、今回からは少し趣向を変えて、学生向けの講演会と交流会の2本立てとしました。

平日にもかかわらず、参加いただいた12名の女性卒業生からは貴重なご意見をいただき、また、BSLの合間をみて学生にも参加いただき、盛会に終わることができました。

この会が、参加してくださった卒業生や学生にとっても、また、この報告書をご覧いただいた方々にとっても、卒後のワークライフバランスを考える上での参考になっていただければ幸いです。

卒後指導委員長

臨床検査医学 教授 谷口 信行

Ⅱ. 開催概要

- 概 要 「医学部女子学生の卒後ワークライフバランスについて考える会」
第1部：女性卒業生による講演
第2部：グループディスカッション・懇談会
- 目 的 女子学生の増加に伴い、卒業後の義務年限の履行と結婚・出産・育児との両立が今後の課題となることが避けられない状況の下、女子学生に在学中から卒後のワークライフバランスについてイメージしてもらう機会を設けるとともに、より多くの女性卒業生と顔見知りになってもらう。
- 開催日 平成24年11月20日（火）
- 会 場 第1部：医学教育研究棟1階大教室2
第2部：研修センター第2・3研修室、西洋堂
- 参加者 第1部：57名（卒業生8名、在学生27名、その他10名、関係者12名）
第2部：57名（卒業生12名、在学生31名、その他3名、関係者11名）
*卒業生のうち2名が保育ルームにて託児を利用
- 主 催 卒後指導委員会（地域医療推進課）
- 協力者 石川 鎮清 医師（卒後指導委員会女性医師支援担当）
牧野 伸子 医師（卒後指導委員会女性医師支援担当）
石川由紀子 医師（卒後指導委員会女性医師支援担当）
佐川 知香 （医学部5年生）
松村うつき （医学部5年生）
南 由美子 （医学部5年生）

Ⅲ. 次第

第1部・講演会

日 時：平成24年11月20日（火）17:00～17:50

場 所：医学部教育研究棟1階 大教室2

司会進行：久保田知之地域医療推進課長

時間	内容	摘要
17:00	開会挨拶	谷口信行卒後指導委員長
17:05	講演① 「自治医大卒業女性医師の夢が叶う 10年間の歩み」	吉田奈緒美医師 山口県26期卒業 下関市立錦中央病院
17:20	講演② 「義務年限中の妊娠・出産・育児」	伊藤順子医師 岡山県26期卒業
17:35	質疑応答	
17:45	卒業生に対する支援について	地域医療推進課

第2部・懇談会

日 時：平成24年11月20日（火）18:00～19:30

場 所：第2・3研修室、西洋堂

司会進行：石川鎮清卒後指導副部長

時間	内容	摘要
18:00	開会挨拶 女性医師支援担当教員紹介	針田哲卒後指導部長
18:05	グループディスカッション テーマ 「地域医療に不安に思うこと」	石川鎮清卒後指導副部長
18:50	懇談会	
19:20	アンケート記入	

IV. 開催内容

第1部 講演会

開会挨拶

谷口 信行 卒後指導委員会委員長
(臨床検査医学 教授)

平成23年度から卒後指導委員会の体制見直しに伴いまして、女性卒業生の出産・育児を背景とした仕事の相談窓口として、女性医師支援担当を石川鎮清先生、牧野伸子先生、石川由紀子先生にお願いしています。

今日は2名の女性卒業生からこれまでの経験や悩んできたことなどをご講演いただき、女子学生が将来どうしたらいいかと迷ったときに参考になればと考えています。

講演終了後には懇談会を予定していますので、そちらでも交流を深めていただきたいと思います。

講演会

講演① 吉田奈緒美先生

講演② 伊藤順子先生

<参加いただいた卒業生のコメント(抜粋)>

両先生は「義務年限中にどのように自分の夢を見つけ、夢に向かって道を模索したか。義務を明けた今、どのように新しい一歩を踏み出すか」「勤務を続けながらの妊娠・出産にはどのような心配ごとがあり、どのように乗り越えてきたか。そして今、育児がとても幸せ」ということについて、データや写真を交えながら発表されました。学生と同様に、熱心に聞き入ってしまいました。

第2部 懇談会

挨拶 -----

針田 哲 卒後指導部長

卒業生と学生が一つのテーマでディスカッションすることは非常に有意義であり、モデルケースや悩みを共有して将来悩むだろうということを知り得ておくことで、将来困ったときに役立つことがあります。

世代を超えた交流は将来の人間関係の基礎になるのではないかと期待しています。

グループディスカッション -----

5グループに分かれて「地域医療に不安に思うこと」をテーマに話し合いを行いました。

<各グループからの発表内容要旨>

[グループA]

【学生からの質問】

- ・地域医療をする中で自分のやりたいことやキャリアに対して思うようにできるか。
- ・地域でできることが限られている中で、先輩方がどのようにやってきたのか。

[グループB]

【学生からの質問】

- ・出身県内の女性卒業生が少数のため、地域では男性医師のほうが受け入れられ易いのではないかと比較されてしまうのではないかと。
- ・義務年限のどのタイミングで妊娠・出産・育児をするのがよいのか。

【卒業生からの助言】

- ・置かれている環境の中でも自分のやりたいことは見つけられること、悩みながらも将来のキャリアや勤務について相談できる人を見つけ、限られた中でできることを継続していれば将来に繋がっていく。

【卒業生からの助言】

- ・一生懸命努めれば地域住民は温かく迎えてくれること、できることを頑張ることが大切。
- ・女性医師に対する看護師の目は厳しいので手を抜いてはいけない。
- ・女性医師は一人診療所に行かなくていいと男性医師から言われてしまうことがあるが、都道府県によって事情が異なるため

担当者に確認を行う。(他県で一人診療所に行っている女性卒業生に意見を聞いてみるようになった)

- ・妊娠前から周囲とのコミュニケーションをとり自分ができることを頑張っていれば妊娠中や出産後に周囲からサポートを受けやすくなる。権利だけを主張しては周囲からのサポートは受けられず、患者さんからの理解も得られない。
- ・地域での出産や子育ては大変に思われがちだが、地域住民との距離が近いことから近所の方からのサポートは得られやすい。

[グループC]

【学生からの質問】

- ・専門医を取得するのが他大学より困難ではないのか。
- ・出産のタイミングについて。
- ・育児について。

【卒業生からの助言】

- ・9年間ほどの専門に進むか考える時間と思えば他大学より恵まれている。9年の地域勤務中に発見されることがあるのでプラスになる。
- ・復帰後に医療技術や勘などを取り戻す時間ができるだけ少なくするためには患者さんを一人で診られるようになってから出産したほうが良い。
- ・仕事をしながらの育児は夫や周囲からのサポートが必要になるため、夫が医師であっても協力しあうことが大切であり、ベビーシッターさんを利用するのも良い。

[グループD]

【在学生からの質問】

- ・地域医療をするうえで出産・育児することが不安。
- ・不安の理由の1つ目は、へき地ではベビーシッターを探すことが困難であり

【卒業生からの助言】

- ・子育てに関してはへき地のほうが手助けをしてくれるから安心。必ずしも両親を頼るのではなく地域の方と助け合っていくのが大切。

保育園等が充実していないのではないか。

・不安の理由の2つ目は、実家が遠方の場合は両親からのサポートが得られないのではないか。

[グループE]

【在学生からの質問】

- ・出産のタイミングについて。
- ・サポートが受けられたのかについて。
- ・復帰時の不安について
- ・結婚までにやっておくべきことについて

【卒業生からの助言】

- ・各自のライフスタイルによるが、子育てをしっかりとしたいなら義務年限終了後と考える場合や、体力的なことを考え30代前半までになどの考えがある。
- ・一人診療所の場合は代診医を探さなくてはならないため大変。
- ・それまでの人間関係に左右されることもあるので、妊娠前・妊娠中に限らずできることは率先して行い、できないことはきちんと伝えることが大切。
- ・長期の育休は使用していた薬品が変更になる等、様々な記憶を呼び戻すことに時間を要する。子どもも母親から離れることに慣れていないため長期の休みのほうが大変になる可能性もある。タイミングよく復帰するのが望ましい。
- ・結婚はゴールではなく、自分の理想とする医師像を常にもちスキルアップのために情報収集などに心掛けるとともに、良好な人間関係を築くためにも多くの人と接することが大切。

〈参加いただいた卒業生のコメント（抜粋）〉

学生たちが熱心に次々と質問してくれて、討論というよりは一問一答に近い感じでした。同じグループの卒業生と自分たちの経験談などを話しましたが、女子学生たちが真っ直ぐこちらを見てメモを取りながら熱心に聞いてくれる姿勢がとても嬉しかったです。また、自分も学生の頃や研修医の頃は、将来を不安に思ったり、先輩方がどのように乗り越えたのかを少しでも知りたいと思っていたのを思い出しました。

懇談会

グループディスカッション終了後、場所を西洋堂に移して、立食形式で女性卒業生同士の懇談会（情報交換会）を開催しました。

牧野伸子先生の乾杯の発声後、和やかな雰囲気の中で卒業生同士、卒業生と在学生による情報交換が行われました。

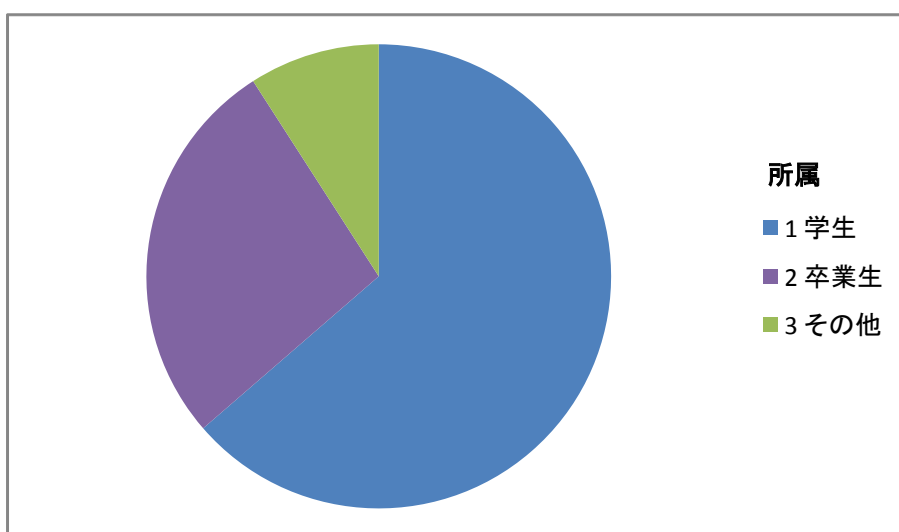
V. アンケート結果報告

当日は、お忙しいところご出席いただきまして、また、アンケートにご協力いただきましてありがとうございます。

ここにその結果を報告いたします。

1. 所属について

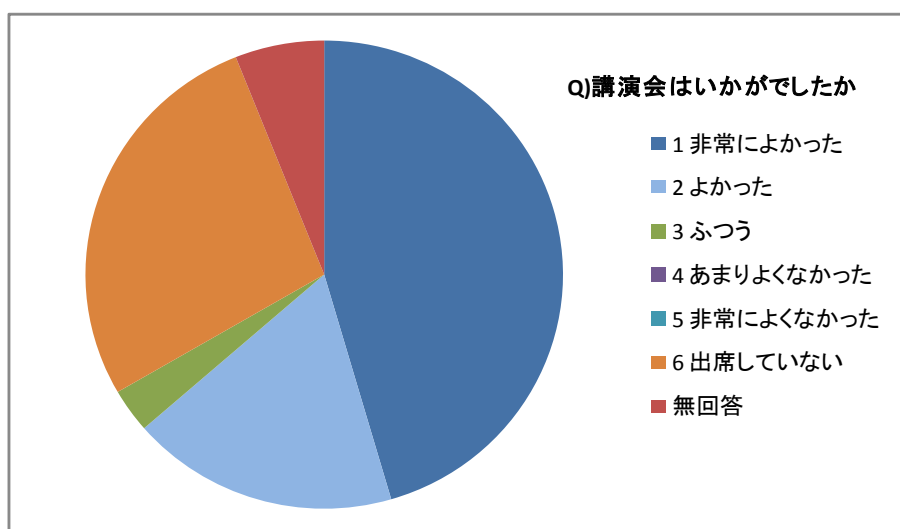
1 学生	21	
2 卒業生	9	
3 その他	3	(行政職員、職員)
計	33	



II. 講演会について

(1) 講演会はいかがでしたか。

1 非常によかった	15
2 よかった	6
3 ふつう	1
4 あまりよくなかった	0
5 非常によくなかった	0
6 出席していない	9
無回答	2
計	33



(2) その理由を教えてください。

◆1・2の理由

- ・自治以外の方と結婚した方のお話が伺えて良かったです。
- ・日頃、将来を考える上でとても気になっていたテーマだったので。
- ・自分が将来どういうふうになるのかというモデルとして先輩の話を伺うことができました。
- ・ライフワークがわかりやすかったから。
- ・卒業生の結婚や出産について前向きな話を聞くことができ勇気をもらえました。
- ・具体的なお話を聞いてよかったです。
- ・もっと多くの先生の話が聞きたい。
- ・卒業生の方が苦勞なされたことや、これからのキャリアについてお話を伺えたから。
- ・いろいろなパターンの結婚、出産、育児についてきけた。
- ・実際に活躍されている先生の生の声は大変参考になります。
- ・医師としての働き方がとても分かりやすくお聞きできてよかったです。

◆3の理由

- ・2人の演者のテーマがかぶっていた。年代が違うとなおいいかと…。

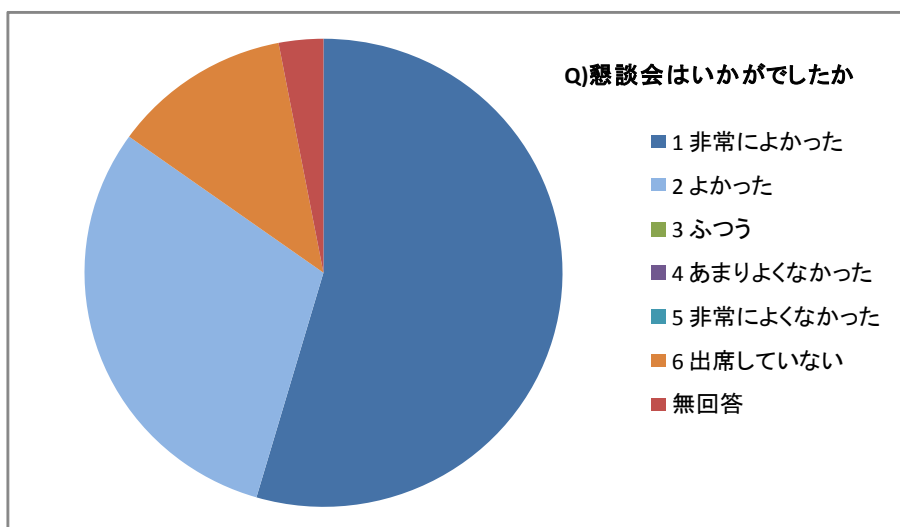
◆6の理由

- ・BSLのため。
- ・実習で間に合わなかった。残念です。
- ・実習で遅刻しました。
- ・BSLで遅れたため参加できませんでした。すみません。
- ・発表していたためみなさまの感想が聞きたいです。

Ⅲ．懇談会について

(1) 懇談会はいかがでしたか。

1 非常によかった	18
2 よかった	10
3 ふつう	0
4 あまりよくなかった	0
5 非常によくなかった	0
6 出席していない	4
無回答	1
計	33



(2) その理由を教えてください。

◆1・2の理由

- ・各グループ、バランスよく分かれていて話しやすかった。
- ・先生方と直接お話できた。
- ・貴重なご意見をうかがえたから。
- ・お話を直接聞けて、今までギモンに思っていたことがわかった。
- ・ワークショップ形式で、とても役に立ちました。
- ・グループで話ができただけが有意義でした。
- 何よりたくさん卒業生の方が集まってくださってありがたかったです。
- ・でも、もっとたくさんの先生とお話したかった。
- ・OB（OG）の先生とお話させていただいたことが良かった。
- ・卒業生の色々なお話を聞くことができた。
- ・食事がおいしい。いろいろな人と話げできた。
- ・先輩、後輩からたくさんお話を聞けました。
- ・年代を超えての交流の場があるのはとても良いですね。
- ・テーマはあったものの、かた苦しくならず話げできた。
- ・学生の方と、ざっくばらんに、これまでの苦労話や、どう医師としてキャリアをつんできたかなど話げすることができました。
- ・学生からの悩みをいろいろ聞けたので、とてもよかったです。みんなちゃんと考えているんだなど感心しました。もう少し個別に答えてあげたかったです。

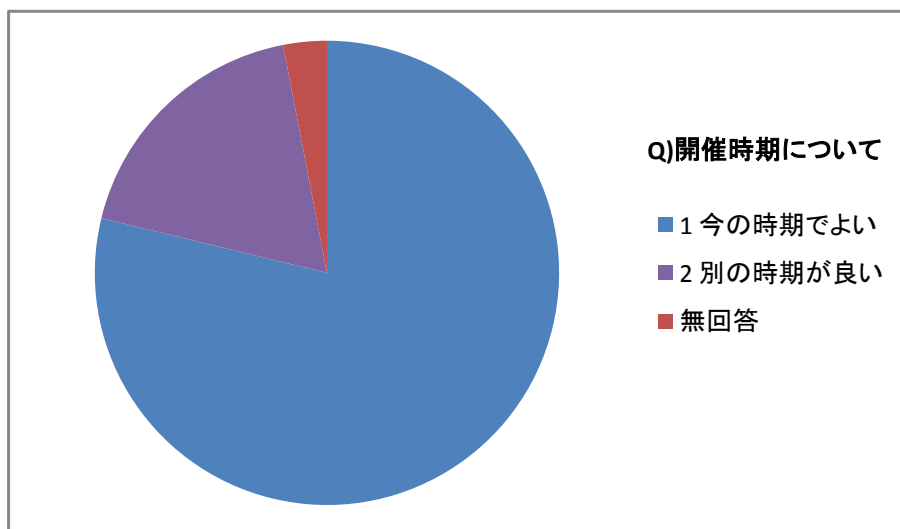
◆6の理由

- ・BSLのため。

IV. 講演会・懇談会

(1) 開催時期についてご意見をお願いします。

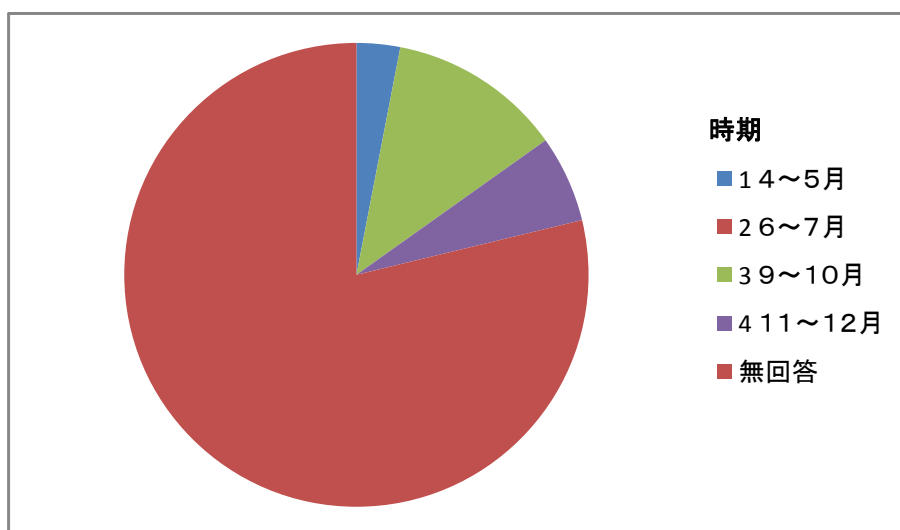
1 今の時期でよい	26
2 別の時期が良い	6
無回答	1
計	33



(2) 「2 別の時期がよい」と回答された方はいつ頃がよいと思いますか。

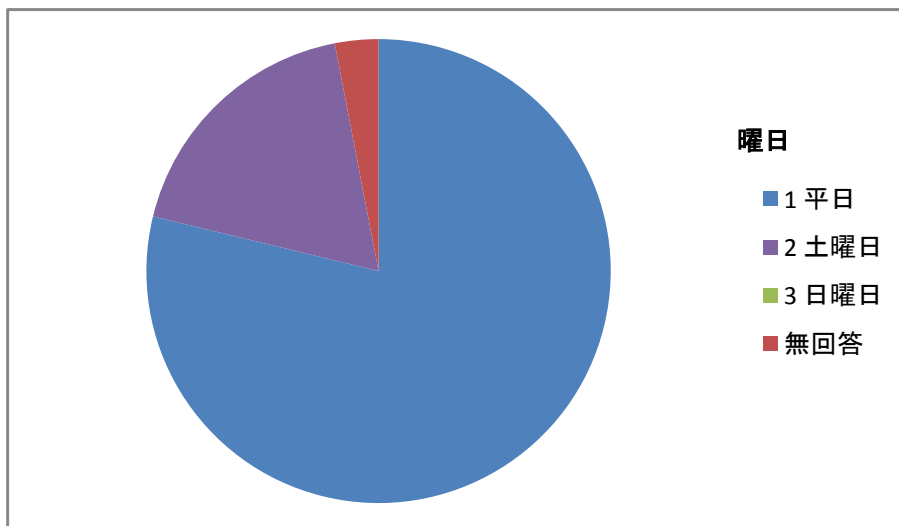
① 時期

1 4～5月	1
2 6～7月	0
3 9～10月	4
4 11～12月	2
無回答	26



② 曜日

1 平日	26	水・木1、金2
2 土曜日	6	
3 日曜日	0	
無回答	1	



③ 時間帯（具体的な時間帯をご記入ください）

- ・ 18時以降 6
- ・ 19時以降 1
- ・ もっと遅く 1
- ・ 夕方 1
- ・ 午後 1
- ・ 今と同じ 1

(3) 今後取り上げて欲しいテーマ・要望等がありましたら教えてください。

◆ テーマ

- ・ 自治医大生にとって理想の研修医の姿勢
- ・ 子育てについて
- ・ 結婚や出産と義務年限
- ・ 女性だからこそできること
- ・ 女性であるからこそ生かせること
- ・ 女性のキャリアについて
- ・ 育児、出産について
- ・ 同じでもいいかもしれません
- ・ ワークライフバランス
- ・ 医師勤務の現実特に離島、一人診療所などにご勤務されている先生からの体験談が聞きたいです

◆ 要望等

- ・ もっと低学年で聞いても興味深いテーマだと思います。
- ・ もっといろんな先生と話したい!!学生と先生の話す機会をもっと!!
- ・ テーマではないですが、いずれはご結婚されていない先生にも来ていただきたい。
- ・ 女学生だけでなく、男子も参加しやすい雰囲気を作っていくべきだと思う。

地域医療推進課では、卒業後の勤務に係る様々なこと（育児支援も含む）の連絡調整業務を行っています。各都道府県での勤務状況などを把握しているからこそアドバイスできることもあるかと思います。みなさんが少しでも笑顔が多い日々を送られますよう、微力ながら協力させていただきますので、遠慮なくご連絡ください。

地域医療推進課卒後指導係

TEL : 0285-58-7055 FAX : 0285-44-6274 E-mail : chisuip@jichi.ac.jp

地域医療推進課女性医師支援ホームページ

<http://www.jichi.ac.jp/chisuika/jyoseiishishien.html>

平成25年2月1日発行

発行元 自治医科大学地域医療推進課
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
TEL : 0285-58-7055
FAX : 0285-44-6274
E-mail : chisui@jichi.ac.jp
URL : <http://www.jichi.ac.jp/chisui/htm>